

平成28年度 第1回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成28年6月7日（火）午前10時15分～午前11時45分

◇場所：本庁舎4階 第3, 4会議室

◇出席委員：13名（欠席1名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開 会

2 協 議

（1）第2期三原市市民協働のまちづくり推進計画について

事務局より説明。

○：調査結果の表の文字が白で見えにくい。

○：白が浮いたようで第一章はよく見える。

○：もう少しコントラストをつけたほうがいだろう。できる範囲で工夫してほしい。

●：工夫する。

○：活動しやすくなった団体の割合はどういう形で拾っているのか。前回の委員会で自治会の加入率と団体登録数の増加というのは出ていたと思うが。

●：長期総合計画の達成度を計る指標であることから掲げている。現状値から平成27年度以降にアンケートなどの調査をして、その数値を図るという計画になっている。

○：「27年度以降」は必要なのか。

●：この計画策定が27年度末であるため、この表現にさせてもらっている。実際には、今後市民活動団体へのアンケートなりそういったもので満足度も把握をしていきたいと考えている。

○：目標値は現状値がないのに「上昇」というのは違和感がないか。

●：最終的な目標値は上昇だが、上昇したかどうかを計る基準値を近々定めたい。長期総合計画においても、特に満足度調査といった指標はこういう統一的な表現にさせてもらっているのだから、この計画においても同様の表記にさせてもらいたい。

○：長期総合計画にはどう書いてあるのか。

●：長期総合計画も、同様の表記である。現状値は把握ができていないため、平成27年度以降に調査をして、それを直近の現状値として位置づけ、最終の平成31年度にはそれを上昇させるという表記にさせてもらっている。

○：これは長期総合計画のことを書いている欄か。

●：長期総合計画における目標値を再掲しているものである。

（2）アクションプランについて

事務局より説明。

○：別紙1の「2 協働推進委員会の関わり」の（1）アクションプランの基本は・・・とあるが、「市」というのは市民協働推進本部ということか。

- ：三原市として素案を策定するということである。推進本部に図るというステップを踏む必要はあるかもしれないが、基本的には市でたたき台を作成し、それに対する意見を本委員会からいただき、最終的なアクションプランを定めたい。
- ：推進委員会で決めたことは、そのままアクションプランになるのか、それとも参考に市でまとめられるのか。
- ：意見をお伺いした上で、最終的なアクションプランの策定は市で行なう。
- ：この推進委員会で突飛な意見や難しい意見が出て、それでもいいのではないかと仮に合意されても、最終的に実行するかどうかの判断は市が最終的にされるということか。
- ：そうである。計画自体の実施主体は市で、この委員会の意見を尊重した上で、総合的に判断して市としてのアクションプランを策定するよう進めさせていただきたいと考えている。
- ：できるだけ市民の皆さんやいろいろな団体が協働の輪を広げていくための2期計画になるよう皆さんと議論をしながら作り上げたいという考えだ。たたき台は市で示していただくので、それに対するいろいろな意見を皆さんから聞きたい。
- ：市民提案型協働事業は何年も前からやっているものか。
- ：平成23年度からである。
- ：毎年追跡調査をしているか。
- ：追跡調査はしていないが、必要があるだろうと考えている。
- ：追跡調査を含めてこのアクションプランで、どう自立させるための評価をしたらいいのか協議する必要がある。
- ：別紙1には、プランのチェックアクションで評価という項目があるのに、こちらには評価がないのは問題ではないか。目標が違うのであれば、評価項目をどのように入れるのか。中間評価は必要になってくるだろうし、項目をどこかに入れてみてはどうか。
- ：示しているのは、アクションプランという形のフォーマットである。実績等を踏まえたものを記載した別のフォーマットも必要だと考えている。2段階を想定しているが、1枚にまとめたほうが分かりやすいということであれば、今後整理させていただきたいと考えている。
- ：ひとつの事業で実績も振り返ることもできる、その評価項目も入っている、それにあわせてどうだったか評価も記入できる。それを受けてこの部分を次に改善として見直そうというように、一つに整理するほうがいい気がする。
- ：わかりやすい評価項目が必要だと考える。ましてや、別紙1にはプランのチェックアクションとはっきり書いてあるので、これをフォーマットにしたときにどう落とし込んでいくのかがひとつの考えではないか。
- ：事業目標で、例えば市民活動団体の育成事業だと、継続やレベルアップが指標のひとつになる。団体を育て継続してもらうためには、例えば団体の活動情報を市民活動センターで登録するか、年1回くらい集まって活動報告会という場を設けるなどの環境整備をすればよいのではないか。しかも、中間支援機能の強化にもつながる。そうすると、一連の施策の歯車がかみ合ってくる、相乗効果が出てくるという感じがする。
- ：団体が自己点検でき、市もこのアクションプランを評価して整合性を取ったほうがよい。また、

- 大きくは自立と継続による事業の評価が必要である。さらに、情報提供、資金調達などは、中間支援組織がその役割を担うことにより全体的にレベルアップするのではないか。
- ：目標を考えれば、報告義務があるということを入れておく必要があると思う。市の大きな目標であるからには報告を求めるのは必然だと思う。そうしなければ評価ができず、この事業がうまくいかどうかということが分からないということになってしまう。
 - ：当然ながら補助金なので、実績報告を確認した上で適正であるという判断のもとに補助金を交付させていただいている。補助が終わった後をどう評価するかは、現行の制度ではフォローできていない為、今後どういったかたちで求めていくのか、制度自体の見直しが必要になるかもしれない。事後の評価を行うことが必要だと考えている。
 - ：やはり、市の助成なり補助金については評価が必要なのでは。事業が終わった後の評価が参考になっていけばいいのではないか。
 - ：市の行なう事業は、それぞれの事業計画に基づいて実施をしているものが多いので、今回の協働の事業についても第2期の推進計画に基づいていく。事業の次年度以降の関連性の評価が不足していると思うので、少なからずこの委員会においては市民協働推進計画、これに基づく評価の方法、スキームはしっかり定めた上で運用できればと考えている。
 - ：この事業に対する評価は、行政が補助金を出すことに対するものと、我々委員会の評価では仕組みや土台が違うと思う。委員会が評価するものは、それが事業の趣旨にあっているかを見るので、簡単な指標を考えたらいいのではないか。それで団体がいろいろなことに関わることで、アドバイスや支援を受けるといった実態にするような方針を委員会で作っていけばいいのでは。
 - ：行政に直接報告を行なうのではなく、例えば継続して活動しているかどうかを把握するために、中間支援組織へ登録をしていただき、そこから定期的にいろいろな調査、問い合わせがあるかもしれないとする。そこから市民活動の案内もあり、報告もしてもらうことにすれば、一定の解決になると思う。中間支援組織の力を上げることもできるという気がする。
 - ：自立や継続ということだけ出ているが、本来は地域課題を解決したとか、他団体にも影響を与えたとか、制度の仕組みや社会が変わったかという視点を入れておくといいのではないか。
 - ：表に事業の目的と狙いがあるが、地域課題の解決、魅力あるまちの創造、協働によるまちづくり、そういったものもキーワードにして、この地域課題の解決を何で表すかということを持たせ台として議論してみる。できるだけ定量化しながらその手法を見つけて評価する。そういうチェック項目も入れることができないかと思う。評価が悪いのならアドバイスするというのが、市でできる新しい運用と考えればすごくいい評価チェックシートになるのでは。
 - ：基本的な項目、全団体に対して共通の項目は整理して素案を作っていく。ただ、目的が違う個別事業の評価は、個々に必要なものを都度定める必要があると思う。そこは、それぞれの事業のアクションプランに一部加えられるような、場合によっては毎年見直すアクションプランで修正ができるようにすることが必要と考える。今日の話に基づいて共通する項目を事務局で整理してお示しさせていただければと考えている。
 - ：共通の指標項目としてA4用紙（別紙2）の表が使えると思う。
 - ：評価項目としては今のご意見も参考にさせていただきながら、これをすべて掲載するのか、あ

る程度集約をしていくのか、そこらも検討する。

- ：5段階などで自分の現状を評価してください、というやり方もあると思う。
- ：社会福祉協議会登録団体では、助成金を受けている団体は報告があるが、受けていない団体は報告が完全ではない。あと、自分の団体にはこういう課題がある、というようなことを書いているところもある。そこに対して、こういうことがあるがどうかという検討を若干はするが、具体的なところまでは出来ていない。
- ：このような評価をしているというものを持ち寄って並べてみて、どういう評価がいいのかという資料作りが必要では。県やNPOでもなにか工夫されていると思う。
- ：それぞれの分野の評価指標は目的が何かによって違う。それは個別になるが、結局それは行政だけでなく市民も参加させないと目的達成できないというのが元々の協働の根本の精神なので、地域調整課が横串をさして情報を集めてそれに基づいて評価もする。それが行政の体制で難しいのであれば中間支援組織を巻き込むというのものもあるし、そのあたりは日々進化している。
- ：職員研修や中間支援の強化の研修など、いろいろ勉強するようにしないと、情報収集とノウハウの蓄積がなく毎年同じような議論が続いていくのでは。直接的な施策ではないが、職員のレベルアップやノウハウの蓄積、中間支援組織の強化をしていただきたい。
- ：個別の評価項目を出そうとしているわけではなく、2期計画でいくつかの大きな施策事業がどう前に進み、見直すべきところはないのかという評価についてだから、細かい評価項目にする必要はないのではないかと。大項目が4つ5つあり、それを何で評価するかを議論できればと考える。その評価を受け、見直しの部分でそのような提案が出てくるのではないかと。思う。
- ：この第4の裏にチェックシートがあるが、これに基づいてそれぞれチェックし、取り組む目的に合うと思うので、例えば初めての方が「知る」ことから始めた人が、次の「はじめる」につながったか、そういう評価の仕方をこれと照らし合わせられるようなものにしたらどうか。
- ：「知る」という分類に入っている支援施策事業は、知ったならどう知ったのか、知ってどうなったのか、そのあたりが分かるような評価項目を整理すれば、この計画通り良い支援が進んでいると言えるのではないかと。
- ：プラットフォームにある「深める」という土俵作りだが、記載のあるこの目標水準が評価項目になっていくのではないかと。いうものであるが、意見はあるか。
- ：1, 2, 3の「知る」「はじめる」「深める」は、いかにはじめる、そしてつなげていく、そういう意味合いになると思う。そこを誤解されないように、はじめるという表現というのが適切なのか考えていかないといけない気がする。
- ：そこを含めて、誤解を与えないような方法で、その事業、それぞれの活動が継続していくということを狙っているのだから、しっかり押さえた上で「知る」「はじめる」「深める」と言っていることをもう一度整理をして伝えていくということ。
- ：これは1, 2, 3となっているが、順番があるのではない。逆に3からはじめるケースもある。あるいは2からスタートするケースもあるだろう。三位一体のものだというような考え方をしてもいいのでは。
- ：評価項目を作る際、そこも意識していただいき、ここの概要はすでに通常事業や特別事業とし

て進んでいる。

- ：今年度の業務は、今後業者委託で実施していきたいと考えている。その前に、基本的な考え方については、ある程度の方向性はもう決定しているため、これをすべてゼロベースからというわけにはいかないが、基本的なスキームの範囲で意見などを伺い詳細内容をつめていきたい。
- ：どういう業者が請け負うのか。
- ：地域計画などの企画関係のコンサルタント業者を対象に業者選定を行なっていく予定である。
- ：専門コーディネーターというのは、その業者にいる専門コーディネーターか。
- ：社内の方もいれば、外部のノウハウを使う業者もいるだろう。あくまでも業者の取り組み方でいろいろなパターンがあるかと思われる。
- ：書いてあるひろしまジン大学というのをモデルに作られた事業か。
- ：昨年度、ひろしまジン大学をお招きし、魅力向上支援事業という別事業でこのプラットフォームの体験的なものを実施した。それを今年度は継続していくという考えでスキームを組んでいる。この事業は、市民協働にかかる人材育成と内容、対象が重複してくるところから、それぞれ別の事をやるのではなく融合させてやっていこうというのが市の考え方である。
- ：28年度の通常事業が10回、特別事業が2回と計画されているが、もう始まっているのか。
- ：この取り組み概要は計画ベースであるので、今後、詳細を仕様にとまめて発注業者を選定する。仕様がないと評価項目のすべてをピックアップできないと思うが、プラットフォームの事業を進めるにおいて、有効な方向性などの意見があれば伺い、可能なものは仕様に反映していく。ただ、大枠部分の変更は難しいので、可能な範囲で修正していきたいと考えている。
- ：どれだけ受講ニーズを把握しているのかがポイントとなる。ニーズと社会資源をどのように見ているのか、プラットフォームという横文字の言葉でなんとなくそれでやったらいいというふうに見えてしまって怖さを感じる。社会資源のリソースをどういうふうにプラットフォームに落とし込むのか、また別のノウハウが必要になってくると思う。
- ：この講座自体、どうやって勉強会を進めていくか進行も含め評価されるという事を前もって提示し、外部団体にも関わってもらうことが必要である。そういうことがようやくスタートに持ってこれたと思う。そこも含めて評価項目を作っていく、全体的にレベルアップできたらいい。
- ：業者に委託するとき、三原の事をどれだけ分かって、あるいは根を下ろしてやっていただくか、そういうことも含めて専門業者に言う必要がある。
- ：昨年度も、業者に丸投げでは活動されている人を知らないで、市が間に入り繋げていった。団体を口伝で紹介してもらいながら28団体くらい集まってもらい、一緒に自分たちの活動を語ろうという場をもった。そういう事を今年度もやっていきたい。コーディネーターには三原を知ってもらい、市も動き、参加者の声をしっかり聞きながら今回より次、そのまた次と、まちづくりの土台となるような場を継続的に作れるようにしていきたいと思っている。
- ：みんな対等に議論したり、会話ができる場をどう演出するかもこの評価になるだろう。そういう意味で、コーディネーターの手腕がとても大事になってくる。育成する意味でも、やり方をどう評価するか。「場」としてどうだったかを評価していかないといけない。
- ：今時点で示している3事業のアクションプランを完成させるというのは困難だろうと考える。

再度事務局で今日の意見を踏まえて、チェック項目やフォーマットも含め整理した上で、より具体的な内容でもう一度協議の場を設けさせていただきたい。

3 その他

(1) 推進委員の任期について

次期選任について事務局より説明があった。

4 閉会